

授業概要

科目名	高次脳機能障害 I				授業の種類	演習	講師名	菊妻 愛味
授業回数	15 回	時間数	30 時間	1 単位	必修・選択	必修	配当学年 時期	1年 後期
【授業の目的・ねらい】 失認・失行・視空間障害等について学び、高次脳機能障害がどのように起こるのか理解する。								
【実務者経験】 言語聴覚士として倉敷市立病院に勤務、失語症・高次脳機能障害・嚥下障害・構音障害・音声障害・発達障害のリハビリテーションに従事経験。								
【授業全体の内容の概要】 高次大脳機能障害に関する知識を習得し、検査、評価法を学び、リハビリテーションについて理解を深める。								
【授業終了時の達成課題（到達目標）】 高次大脳機能障害の概要を把握、理解し、臨床場面での適切な検査・評価等を実施するための基礎を習得する。								
回数	講義内容							準備物(教材)
1	高次脳機能障害基本概念、脳のはたらき、脳機能的領域、側性化について理解できる							教科書、PC(講義用)
2	高次脳機能障害のリハビリテーションについて理解できる							教科書、PC(講義用)
3	視知覚障害、視覚認知障害について理解できる							教科書、PC(講義用)
4	半側空間無視、地誌的見当識障害について理解できる							教科書、PC(講義用)
5	バリエーション症候群、構成障害について理解できる							教科書、PC(講義用)
6	触覚性失認・聴覚性失認について理解できる							教科書、PC(講義用)
7	病態失認について理解できる							教科書、PC(講義用)
8	失行について理解できる							教科書、PC(講義用)
9	記憶障害について理解できる							教科書、PC(講義用)
10	前頭葉機能障害について理解できる							教科書、PC(講義用)
11	脳梁離断症状について理解できる							教科書、PC(講義用)
12	認知症で生じる高次脳機能障害について理解できる							教科書、PC(講義用)
13	脳外傷・認知コミュニケーション障害について理解できる							教科書、PC(講義用)
14	認知コミュニケーション障害について理解できる							教科書、PC(講義用)
15	過去問に触れ問題傾向を知り、理解する							教科書、PC(講義用)
	定期筆記試験							
【使用教科書・教材・参考書】 標準言語聴覚障害学 高次脳機能障害学 第3版								
【準備学習・時間外学習】 授業で行う内容の予習・復習をおこなってください。								
【単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など）】 試験の結果を100点満点として成績を評価する。 試験は定期試験のみ実施とし、 60点以上の場合に科目を認定する。								